

NEW DENTAL SALON

お知らせ

初診料 注1の届出について

トピック

歯と口の健康週間行事

歯科医師会と私

休載

業者からの耳より情報

ケーオーデンタル株式会社

これからよろしく

(若手自己紹介)

須田 寛志 先生

高橋 良治 先生

連載紀行 気が付けば乗り物嫌いが旅の虜に

関根 潔 先生

連載 下都賀歯科医師会側面史

落合雅雄 先生

編集後記

今回は初めて掲載予定の先生から原稿を戴けませんでした。休載をお詫び致します

広報担当理事 前橋 潮

ネット配信広報誌 第6号 2018年夏 お知らせ

初診料注1の初回届出期日9月30日が迫ってきました。必要な研修を受け、滅菌対策内容等の届けを忘れずに出しましょう。

「歯と口の健康週間」行事「フッ化物塗布」

平成30年6月10日（日）栃木市総合運動公園内 体育館 メイン競技場において「歯と口の健康週間」行事「フッ化物塗布」が開催された。

栃木市壬生町の小学1年生および次年度就学児の希望者を対象とし、恒例のフッ化物塗布に加えて、各種講演や新たな催しとしてバクテリア・セルフチェッカー『mil-kin（見る菌）』というスマホに口腔内細菌を映す装置を使ったプレゼンテーションや昨年から始めた『りっぷるくん』という口輪筋の強さを測る装置を使った測定プログラムなども行われた。

相談コーナーでは相変わらず矯正の相談が多く、この領域の需要が多いのが実感された。これを歯科治療需要に結びつける努力も必要だろう。少子化や小・中学生の子供医療手当の影響もあり年々希望者が減少している。様々な新しい取り組みも行っているものの参加者微減となった。対象を広げるなどの対策を考えていかないといけない時期が来ている。

広報担当理事 前橋 潮 記

フッ化物塗布会場の風景



おくちポカ〜ン
口唇閉鎖不全症は予防する時代

口唇閉鎖力測定器

りっぷるくん



業者からの耳より情報



ケーオーデンタル株式会社 宇都宮営業所 石川享史

初夏の候、皆様ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご厚情を賜わり深く御礼申し上げます。

一昨年の10月より新しく発売しましたノンクラスプデンチャー「デュラフレックス」ですが、大変評判が良く、お陰様で、平成29年8月31日時点で2,765床症例を受注するまでになりました。このたび、色調をリニューアルし金属床とコンビネーションデンチャーの制作が可能になりました。

デュラフレックスは、金属床を使用することで、レストで支持、舌側メタルバックングまたは、舌側クラスプによって把持、頬側デュラフレックスアームによって維持力を求める義歯本来の機能と審美性を与えることができます。強度もありたわみも少なくしっかりとした装着感が得られ、床を薄くすることで違和感の少ない爽快な義歯を作ることができます。



デュラフレックスの特徴

- ・ 耐久水性…吸収性が極めて低く劣化しにくく、色素沈着による変色や汚れの付着が少ない
- ・ 適合性…製作時の熱収縮が小さいので適合性が良い

- ・ 耐久性…半結晶構造をしており強靱で破折しにくい
- ・ 安全性…アメリカで約7年の臨床実績があり、アレルギーや中毒物性に関する試験をクリア
- ・ 柔軟性…非常に柔らかく丈夫でしなやかな材料なので、深いアンダーカットの症例でも使用可能



制作日数

- 金属床のみ…4日 配列試適のみ…3日 排列試適後仕上…6日
- 金属床+排列試適…7日
- 金属床+排列仕上…10日

★デュラフレックスは1年保証付き…床破折について無償で対応致します。

※咬合高径7mm以下の症例は対象外です。



詳しいお問い合わせ先

ケーオーデンタル株式会社

宇都宮営業所 ☎026-637-2761

これからよろしく

須田 寛志

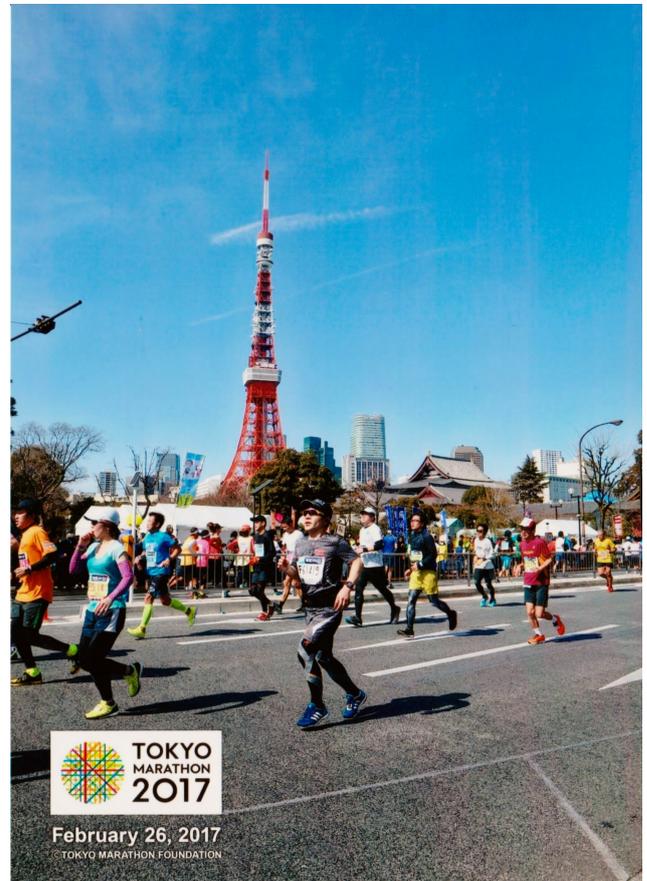
「東京マラソン」を走る

『何故、人は走るのだろうか』その問いに『走ることは本能なのである』と答えた人がいた。どんな世の中になろうとも、走ることは、生きていくために必要な誰にでも備わった生まれつきの本能なのだそうだ。

今から7年前、私は体重の増加が原因であろう、蕁麻疹になった。減量のためにウォーキング、ジョギング、ランニングと徐々にペースを速めて、半年で13キロのダイエットに成功した。身体が軽くなると走って汗を流すことが楽しくなり、距離を延ばしていった。5キロ、10キロ、ハーフと大会に出て完走できるまでになった。

そんな時、東京マラソンに当選した。2年連続で落選していたので、諦めていたところに嬉しい知らせだった。初フルマラソン完走のためにトレーニングを積んだ。

東京マラソン当日、沿道の大声援のなか新宿～銀座～浅草と東京の街を絶好調に走り抜けた。終盤の築地本願寺の辺りになると急に



足が痛くなり動かなくなった。「もうだめかもしれない。いや、ここでやめる訳にはいかない。這ってでも完走するぞ」と最後の力を振り絞って豊洲の坂道を超えた。どうにか有明のゴールに辿り着いた時、肉体はボロボロだったけれど、いままでに味わったことのない感動で涙が溢れでた。

それから、10回のフルマラソンを完走した。2017年の東京

マラソンでは、コンディションに恵まれ、目標だったサブ4（4時間以内にゴール）を達成した。年を重ね衰えていくのが当たり前の肉体が、マラソンの記録に限っては、単純な若さや体力の問題ではなく、努力と工夫次第で誰にでも進歩するチャンスがある。サブ4を達成した今、次の目標は「3時間半をきること」になった。海外のマラソン大会に出場する夢もある。マラソンの目標と夢は尽きることがない。

これからよろしく

高橋 良治

こんにちは。「きさくデンタルクリニック」院長高橋良治です。時が経つのも早いもので、もう間もなく開業してから10年が経過致します。開業5年間はお父さんと一緒に歩んできましたが、6年目で父が亡くなり、それからは、3才からやっている「柔道」を再び始め、今現在「石橋スポーツ少年」と「国分寺中」に顔を出しています。やっぱり「柔道」はいいですね。自分の子供にもこの良さを解ってもらいたいと思い小学一年から始めさせました。なんと言っても、道場に入ってから畳の臭いと、

気合いの入り方が最高です。どんな時も相手を敬い礼に始まり礼に終わる。人生も、患者様に対しても全て同じ。だからやっぱり「柔道」最高。礼儀の大切さ、本当の仲間、忍耐力、全て柔道に教えてもらいました。今、子供たちにその良さを一生懸命伝えてます。一番大切なのは、「心・技・体」の「心」だと思っています。夢は自分たちの道場からオリンピック選手をだすことです。長文を読んで頂きありがとうございました。

連載 紀行

気が付けば乗り物嫌いが旅の虜に

関根 潔

2011年(平成23年)12月31日から2012年(平成24年)1月4日

カンボジア紀行

また海外旅行に戻り、今度は家内の行きたかったカンボジアのアンコールワットに付き合いました。午後4時に乗り継ぎのタイ・バンコク空港に着き、この空港のとてつも無い巨大さにビックリしました。

それに引き換えカンボジアのシェリムアップ空港は午後9時半に到着したが、これがまたとんでも無く貧弱な小さな真暗な空港で、これでは日本から直行便は出せない訳だ。

空港で待っていてくれたガイドはリーダさんと言って30代半ばのとても感じのいい、日本人よりもわかり易い日本語を話すお母さんだった。

第一日目は日中がとても暑くなるので朝少し早い8時頃出発した。12世紀前半、アンコール王朝の王スールヤヴァルマン2世がヒンドゥー

教の最も権威ある寺院として建設し、1992年世界文化遺産に認定された。

まずアンコールトム内のバイヨンから観ていった。大小16個の4面の塔が素晴らしく、中には日本のタレントの京唄子さんソックリな顔もあった。



タ・プロームでは発掘されるまで600年もほったらかしにされていたので、石像や建物が大きな



ガジュマルの木の根に囲まれたり挟まれたままになっていて、まるでハリー・ポッターの世界のようだ。夜のレストランでの伝統の舞いがとても素敵だった。日本のドジョウ掬いとそっくりな踊りもあり、とても興味深かった。



2日目はバイクタクシーでシェムリアップの街の見学に。

買い物はしなかったが上野のアメヤ横丁そっくりだった。

アンコールワットの塔への階段が2～3年前に木に登り易い板を取り付けたそうだが、それでも急勾配で十分にこわかった。

3日目はカンボジアでの最後の日になった。バンテアイ・スレイの東洋のモナリザと云われるデバター（天使）のレリーフは残念ながら今はイタズラされないようにと、近づけないようになっていて、望遠レンズで撮ったにもかかわらず太陽光の角度が悪くて良い写真が撮れなかった。



今回最も興味深かったのは、江戸時代の武士がここに来て壁に落書きをした跡で、1632年（寛永9年）3代将軍徳川家光の頃、初めてここに日本の肥州（今の熊本県）の住人である森本右近大夫が訪れ『仏教の悟りを開く事を志し、数千里もの海を渡り、この世の中を浄める為、ここに4体の仏像を奉納します』とあるが、残念な事に森本は、カンボジアのアンコールワットをインドの仏教の聖地と間違えて訪れていた事と、彼がアンコールワット滞在中に、日本は鎖国の方針が打ち出されていて、海外渡航は禁止、外国からの帰国者すらも極刑（死罪）となっていたのだ。森本はこの事を知り、急いで帰国し、「森本」の姓を捨て、京都郊外の山崎に引き籠り、死ぬまで身を隠したそうだ。



私の歯科履歴書 落合雅雄

栃木市部会

私が理事を務めた栃木県歯科医師会下都賀支部は、法人のホの字もなかった任意団体である。古き良き時代の頃であった。3歳児健診は法定だが、歯が生えたばかりの2歳児からケアすべきと思い、栃木市独自に2歳児健診を実施し、現在も継続実行されている。

ライオン社が衛生士による巡回口腔衛生キャンペーンを市内小学校に実施する行事は毎年恒例とし2歳児と共に行政から助成を受けた。

新井栄二支部長まで歴代支部長は、全員栃木市に診療所・住宅を持つ栃木市民だったので、栃木市が対象とする市内歯科医院への連絡や要請などが、すべて支部長宛で済ませ、用が足りていたところ、藤岡町の高際徳之進先生が支部長に就任されると、藤岡町とは無関係な市の諸々の連絡などの宛先が無くなってしまふ。そこで市内の役員が窓口となり、市当局との連絡に



あたることにした。

一方下都賀郡市医師会は、栃木市、小山市と下都賀郡の町で構成されているので、傘下に小山市医師会、栃木市医師会を設け夫々の行政に対応していた。小山支部でも小山市歯科医師会を設けて小山市に対応していた。私は行政とよりスムーズな対応を考慮して前二者と同様栃木市歯科医師会を設けることを提案したところ、下都賀役員の猛反対に会い、まったく理解が得られなかったが、金井昭雄先生の提案で栃木市部会として落ち着いた。

県歯代議員は9年(10年務めると表彰されるのが嫌で9年で辞めた)務め大塚会長とは戦い続け、すべて下都賀ファーストで理事も務めて来たが、支部会の件を境に下都賀支部無役の一会員になった。

歯科医師も社会の構成員である。以後は社会の要請に対しては可能な限り尽くすこととして、20年務めた自治会長から現在合併後の自治会連合会の会長として、自治会活動で、市民の融和を模索中である。自治会に関連して街づくりの様々な分野での旗振り役もいくつか務めているが私は常に歯科医師という職業人の代表として恥じない行動を心掛けて、自分で歩行ができて、自分で考えることができるうちは社会に奉仕しようと想っている。小平正夫先生が宇都宮地方・家庭裁判所栃木支部における調停協会会長を務めておられるとき、先生の推薦により調停委員(家裁)を務めた。社会の様々な実相を伺い知ることによって格差の存在が実感させられた。副会長を務めていた時、坂本先生に調停委員を引き継いでいただいた。